

SUPPOrTers

サポーターズ No.165 2025 春号

一般社団法人 山梨県理学療法士会ホームページ

<http://ypta.jp/>

会員数 927名 施設数 154 (R7.2.25現在)

「supporters (サポーターズ)」とは…

我々理学療法士が社会に寄与していく職種であることを思い、「支える人」という意味の *supporter* に複数形のsを加え、*supporters* : 支える人たち (造語) の意味です。

これを書いているのは1月下旬、インフルエンザ、COVID-19が猛威を振るっている頃です。皆様の体調は大丈夫だったでしょうか。また皆様のご施設はいかがだったでしょうか。

さて理学療法士会ホームページより当会の目的を示します。

「当法人は、公益社団法人日本理学療法士協会の目的に沿い、山梨県における理学療法の普及および向上を図り、理学療法の学問的成果並びに先進技能を研鑽し、併せて理学療法士全体の資質の向上に努めることにより、県民の健康の保持および増進を図り、持つて県民のための医療、保健および福祉の向上に寄与する。」とあります。

会報部として、「学問的成果並びに先進技能の研鑽」の一助になる読み物の掲載を考えました。今誌より3回にわたり「私の科学の学び方」をテーマとしたコラムを掲載いたします。

166号では帝京科学大学、167号では健康科学大学の先生にご執筆を快諾していただきました。学ぶことで、わかる喜びや、驚きをたくさん経験している大学の先生方は、どのような時に学び（調べ）たくなるか、どのような学びをしているのか、何がきっかけで今の研究をしているのか等々を、詳らかにご執筆いただきたいと思います。

また今誌は僭越ながら会報部が執筆いたしました。大学の先生たちのようにはいきませんが、「学びのきっかけ」は身边にあるものです。このテーマにした2つ目の理由が「編集後記」にあります。どちらも楽しんでいただければ幸いです。

会報部



CONTENTS

2024年度 管理者・若手合同情報交換会を終えて 2~3
私の科学の学び方～SFを交えてBMIの話しませんか～ 4

活動報告	6~7
事務局からのお知らせ	8~11
リレーエッセイ Part 47	12~13
原稿募集	12
編集後記	13



2024年度 管理者・若手合同情報交換会を終えて



土会支部局長
平賀 篤
帝京科学大学

「管理者・若手合同情報交換会」を2024年12月5日に大木記念ホールにて実施いたしました。

前半は管理者と若手が同じテーブルに座り、それぞれの考える未来の理学療法士像を語っていただきました。ご自身の経験を基に話される先生(『俺の若い頃は～』的な自慢にならないよう、ファシリテーターの先生方に尽力いただきました!)、社会の中で理学療法士が果たすべき役割を中心に話される先生、自分が学生時代に思い描いていた理学療法士像を話される先生など様々な視点からの未来の理学

山梨県の理学療法士数は2024年現在で1000人程度であり、都道府県別に見ても非常に少ないので、これは逆にメリットにもなり得るのではないかと日頃から感じております。例えば急性期から在宅までのシームレスな支援を提供する場合、理学療法士数が少ないと知っている理学療法士に申し送る確率が上がると考えられるため、より密な情報共有が図れる可能性を秘めています。一方で山地が多く施設ごとの距離が離れているなどの地域的特性や、COVID-19の影響から他施設と関わる機会は多くないといった実状が見られます。

それらの背景を鑑みまして、まずは「理学療法士の知り合いを増やしましょう!」という目的で山梨県理学療法士会として初の試みとなる



療法士像を共有していただきました。

後半は管理者・若手がそれぞれ別テーブルに移動して未来の理学療法士像を実現するにあたり、どのような支援が必要と考えているかを議論しました。議論の中心はスキルアップに関する事や職場環境に関する事(雑談の中で給料が上がってほしいという訴えが多数ありました、私もそう思います。)でしたが、管理者・若手問わず自施設以外の理学療法士との連携の機会を求めていた印象を受けました。

想定以上の参加人数となり、1グループあたりの人数が多く十分に発言ができなかった先生方もおられたかと思います。次回開催時にはもっともっと先生方が自由に発言できるような場を設ける予定です。今後も施設間連携・地域間連携を継続的に強化していきたいと考えております。引き続き士会員の皆様のご協力をお願いいたします。



学
び
方
の
科
学
の
私

～SFを交えてBMIの話しませんか～

とある学会の企業ブースで、脳科学と「Artificial Intelligence(以下AI)」を融合した「Brain Machine Interface(以下BMI)」技術を体験をしました。その時は「へー、ほー」と感心して聞いていましたが、後に私の頭の中で色々な情報が突如結びつきだしました。

2014年3月14日に公開された『ロボコップ』リブート版を鑑賞された方はいるでしょうか。映画の序盤に「リハビリテーション棟」がでてきます。

時代は2028年、患者は両前腕切断。両腕にメタリックな義手をつけたプロのアコースティックギタリスト。脳には義手を動かすチップを外科的に埋め込まれている様子。脳の活動がモニタリングされている。医者はギターを弾くように促し、彼はプラシド・ドミンゴの「En Aranjuez Con Tu Amor」を弾き始める。コードを抑える左手。弦を弾く右手。滑らかな両手の協調でドミンゴの失恋のメロディが奏でられた。手術は成功に思われが両手が思うように動くことがわかると、彼は音に「感情」を乗せ始める。しかし脳のチップには、「感情」が「ノイズ」となり、義手は彼の制御を失い始める。

そのようなシーンでした。私は当時、映画の内容に没頭して気づかなかったのですが、これって「BMI」なのでは?と、思い出したのです。それがきっかけで今回、BMIを調べてみました。

現実世界ではBMI研究は1960年に公表された「サイボーグ」に関する論文に遡るとされています。米国で2013年に「The BRAIN Initiative」を発表し継続中、欧州連合は2013年から2023年まで「Human Brain Project」を行いました。国家主導でBMI研究に投資している総額は、2026年までの日本、米国、欧州連合、中国を合わせると日本円にして約9881億円です。日本の動向は2007年に策定した長期的な研究開発指針「イノベーション25」から始まり、2024年度からは仮想空間上に脳を再現する「デジタル脳」の構築へと繋がります。また2020年に始まった「ムーンショット型研究開発事業」も進行中です。

BMIも侵襲型、非侵襲型、入力型、出力型とあり、進化をし続けるAIを導入することによって、BMI研究はさらに加速される予想があります。医療では、脳の指令によって運動時に発生する「筋電位」を検知して義手を動かす「筋電義手」があり、米BrainRoboticsはAIと組み合わせて精密に制御する製品を2024年に発売する予定です。

『ロボコップ』リブート版が公開された2014年と照らし合わせたり、調べた結果から考えると、劇中に出現するテクノロジーはBMIと思えてなりません。

前記した「ムーンショット型研究開発事業」には10の目標があり、ムーンショット目標1は「2050年までに、人が身体、脳、空間、時間の制約から解放された社会を実現」です。その説明として「身体、脳の機能を拡張するサイボーグ(義体)技術が普及し、誰もが平等に仕事や趣味で活躍できるようになる。加齢や病気のために衰えてしまった能力を補って社会参加する人が増えるだけでなく、サイバー空間に保存されているアーティストの感覚を脳にインストールして、アートの才能を拡げるような新しい学習方法も登場。脳や身体の制約から解放されて、目的や夢を無理なくかなえる手段が充実した社会が実現する。」とあります。

なんだか「攻殻機動隊」や映画「マトリクス」の世界観ですが、この技術の軍事転用等の懸念材料が山積しているように思いました。もちろん「ムーンショット型研究開発事業」も折に触れ、倫理的・法的・社会的課題(Ethical, Legal and Social Issues、以下ELSI)も合わせて考えていくと説明しています。倫理においては日本でBMI研究が始まって間もなく、川人光男・佐倉統両氏が「BMI倫理4原則の提案」を執筆しています。

BMI倫理4原則

原則1：戦争や犯罪にBMIを利用してはならない

原則2：何人も本人の意思に反してBMI技術で心を読まれてはいけない

原則3：何人も本人の意思に反してBMI技術で心を制御されてはいけない

原則4：BMI技術は、その効用が危険とコストを上回り、それを使用者が確認する時のみ利用されるべきである。

『ロボコップ』リブート版に話を戻すと、オムニコープ社に雇われているノートン博士が瀕死だった警官アレックスをロボコップにし、ストーリーが展開されます。実はこの時点で原則4に抵触しています。その後もロボコップの能力向上のため、オムニコープ社に難題を出されるノートン博士は、BMI技術ではないですが原則3にも抵触します。劇中ではオムニコープ社とノートン博士の構図から、いたし方なくELSIを軽んじてしまうようにストーリーは進んでいきました。今後BMIが社会実装段階において反面教師となり得るような作品でした。

SFはScience Fiction:科学的な空想に基づいたフィクションです。もし興味があればSF系を楽しんでみてください、その物語の背景となっているScience部分を調べると、その物語の解釈も深くなつて面白いですので。

参考文献

- 吉峰俊樹・平田雅之・柳沢琢史・貴島晴彦 (2016) 「ブレイン・マシン・インターフェイス(BMI)が切り開く新しいニューロテクノロジー」(日本脳神経外科カンgress『脳神経外科ジャーナル』25巻12号)
- 計測した脳活動データを被験者自身が行動改善に活かす「ニューロフィードバック」等は広義のBMIと位置付けられる。(三原雅史 (2018) 「治療型 BMI としての Neurofeedback の神経疾患治療への応用」(『臨床神経生理学』46巻1号))
- Manfred E. Clynes & Nathan S. Kline (1960) "Cyborgs and Space" をきっかけに人と機械が融合する技術の研究が盛んになったと考えられる。(横井浩史、姜銀来 (2017))
- 「BMI 出力デバイス人と機械が相互に適応できる技術を目指してー」(精密工学会『精密工学会誌』Vol.83 No.11)
- ムーンショット目標1の研究開発プロジェクト「身体的能力と知覚能力の拡張による身体の制約からの解放」
- ブレイン・マシン・インターフェースの進化と社会実装に向けた課題
- 川人光男・佐倉統 (2010) 「脳と機械の融合はどこまで許されるのか -BMI 技術の倫理4原則の提案-」(現代科学 No.471)

各部活動報告

事務管理局



大西健太 先生

第2回 身体のスペシャリストと学ぶ 親子『カラダ』ワークショップ

2024年11月3日、小瀬スポーツ公園内にて、第2回身体のスペシャリストと学ぶ親子『カラダ』ワークショップというテーマでヴァンフォーレスポーツクラブ様とコラボ開催いたしました。昨年同様に大変好評の企画で、今回も約30組近くの親子にご参加いただきました。

内容は、理学療法士のお仕事説明・ライフキネティック・走り方教室・運動と栄養講座・実食・プロスポーツ現場の見学・アップ見学・スタジアム周回など充実したものとなりました。

プロ選手がアップしている様子や試合前の雰囲気を味わう事ができ、参加者の皆様には大変貴重な体験となったようです。こうした活動を通して、理学療法士の仕事に興味や関心を持っていただく事も重要な活動だと改めて実感しました。また、今回の企画は、理学療法士会スタッフを急遽募集させていただきました。



士会活動は、横の繋がりが広がる事が醍醐味だと感じていますので、私自身非常に貴重な時間となりました。

ご参加いただいた先生方、本当にありがとうございました。

地元山梨県の皆様に理学療法、理学療法士を知っていただき、医療・介護、健康・福祉等の分野で尽力できるように活動を続けて行きます。

★ お問い合わせ先：フルリールむかわ 大西 健太
(事務管理局 E-mail:kenta.4786@gmail.com)

業務推進局 スポーツ理学療法部

レスリング大会の活動に参加して

令和6年12月25日、26日、小瀬スポーツ公園体育館で開催された「2025 JOC 全日本ジュニアレスリング選手権大会U-17 U-20関東ブロック代表選手選考会」及び「2025 アジア選手権U-15関東ブロック代表選手選考会」に参加しました。

今回は国立スポーツ科学センターの医師とスポーツ理学療法部員1日目5名、2日目4名で救護所とマット上の外傷・障害の処置などの対応をしました。2日間併せて34件の処置がありました。

試合中の対応では接触や衝突による出血や脳震盪が多く、毎回緊張しながら対応をしていました。レスリング競技はマット対応の処置時間に制限があり、時間を超過すると選手が失格になってしまうため、迅速かつ的確に処置しないといけない難しさがあります。事前に止血対応や評価など実技を交えながら研修を行っていますが、実際の現場では想定外での場面で対応するなど、より様々な知識を知らないといけないと痛感しました。

今後も自己研鑽を重ねていきながらスポーツ分野に貢献していきたいと思います。

健康科学大学クリニック リハビリテーション課 安藤 駿

★ お問い合わせ先：業務推進局スポーツ理学療法部 小林 幸一郎

(E-mail: kokobayashi@yamanashi.ac.jp)



業務推進局 スポーツ理学療法部

第79回スポーツ理学療法勉強会

令和7年1月21日(火)、オンラインにて第79回スポーツ理学療法勉強会を開催しました。今回の勉強会は「ACL損傷の診断、治療、リハビリテーション～受傷からスポーツ復帰まで～」と題し、国立病院機構甲府病院 スポーツ・膝疾患治療センターおよびセンター長の落合聰司先生をお招きし、お話をいただきました。

参加者は60名あまりで県内理学療法士をはじめ医師やスポーツ現場での指導者と多職種にわたりました。先生には靭帯の解剖から機能、傷害発生機序から始まり診断法、治療として手術方法からリハビリテーションに至るまで多くのスライドを用いて細かに説明していただきました。



いかなるスポーツにおいてもACL損傷は選手生命に直結する大きな問題の一つです。我々理学療法士は術後の靭帯修復過程を理解したうえで適切に対応し選手を支えていくことが重要と思っております。病院、スポーツ現場を問わず今回の内容も踏まえながらより良いサポートを行っていきたいと思います。

山梨大学医学部附属病院 リハビリテーション部 小林 幸一郎

★ お問い合わせ先：業務推進局スポーツ理学療法部
(E-mail: kokobayashi@yamanashi.ac.jp)



第44回関東甲信越ブロック 理学療法士学会のお知らせ

2025年11月15日(土)、16日(日)アピオ甲府タワー館にて、第44回関東甲信越ブロック理学療法士学会を開催いたします。この学会は1都9県の持ち回りでの開催となるため、山梨県で開催となるのは10年ぶりになります。第34回学会は、高村浩司(健康科学大学)学会長のもと1000人を超える参加者が集い盛大に行われました。今回の第44回学会長は甲州リハビリテーション病院の磯野賢先生(山梨県理学療法士会会長)です。第34回学会のテーマは「今、歩むべき道」でした。そして今回のテーマは「今いる場所とその先の未来へ～新時代を生きる理学療法～」としました。

10年前開催された頃に描いた未来には、新型コロナウイルスのまん延や、AI、ICTの急速な普及による生活様式の変化を、誰も想像しなかったと思います。また今年は2025年です。団塊の世代が後期高齢者となる年であり、地域包括ケアシステムの進化・推進をしてきた節目となる年でもあります。

第34回学会からの10年、参加者それぞれの「歩むべき道」はどのような道だったのか、今どこに立っているのか。そしてその先、未来の理学療法はどこへ向かうのか皆さんとともに考える機会にしたいと思います。

詳細決まり次第、改めてご連絡いたしますが、特別講演、教育セミナー、口述発表、ポスター発表等の開催に向け、関ブロ準備委員会は準備を進めています。

しかし、会員の皆様の協力なしには、成功はないものと考えています。多くの会員のご協力・ご参加をお待ちしております。当日はアピオでお会いしましょう!!

学会準備委員長 小林 司
石和温泉病院



2015年9月12・13日の風景です

山梨県理学療法士会 広報局X(旧Twitter)

山梨県理学療法士会 広報局のXの フォローと拡散をお願いいたします

今期の改変に伴い、「広報局」は発展的解消をとげ、事務管理局付きとなりました。しかしながら今しばらくは「広報局」で「X」は活動したいと思います。

また士会員の皆様、是非とも「X」のアカウントを取得し、「山梨県理学療法士会 広報局」の「X」のフォローと拡散を、お願いいたします。



山梨県理学療法士会 広報局
QRコード

広報局は各部局・委員会等より掲載したいデータを募集しています。以下の留意点に注意して広報局会報部にデータを送信してください。



- ◎お知らせ等: 学会や市民講座などポスター等、画像がある場合は添付してください。
- ◎活動報告等: 講習会などの聴講風景や研修会の風景、市民への活動風景等、肖像権や著作権に対し侵害しない配慮が必要です。(講習会開始時に、講演者や聴講者に撮影許可を得る。講演者にはスライドを写して良いか尋ねる等。)
- ◎動画掲載: ご相談ください。同様に肖像権や著作権に対し侵害しない配慮が必要。

データ送付先 ▶▶▶ kaihoushiyamanashipt@yahoo.co.jp

初めてみましょう!!



X の使い方

X を利用、活用するには、アカウントが必要です。

- スマートフォンで使用する場合は、Androidの方はGoogle Playから、iPhoneの方はApp storeからアプリケーションをダウンロードしてください。アプリケーションのチュートリアルに従ってアカウント制作してください。
- ブラウザ(パソコン)の場合は、「x.com」にアクセスすると、アカウント作成画面になります。同様にチュートリアルに従ってアカウント制作してください。

Xって何?



「X」のアクティブユーザー数は2025年1月の時点ですで、世界で5億7千万人です。また世の中のトレンドが分かるSNSです。筆者は気になる団体、「理化学研究所」「脳機能リハビリテーション研究会」「ムーンショット型研究事業」等をフォローしています。その団体がpostすると筆者のタイムラインにpostが浮上し情報が得られます。

ちなみに「X」のアカウントを持っていると、ブラウザ(パソコン)で検索した場合、「X」も検索範囲に含まれます。



事務管理局からのお知らせ

= 重要なお知らせ =

◆ 会費の納入期限について

2025年度分の会費の納入期限は2025年(令和7年)3月中になります。

クレジットカード、口座振替の会員については、3月中に引き落しになります。

引落登録のない会員については、振込用紙(納入手数料あり)が順次発送されます。

注意:振込用紙を利用されている会員につきましては、

用紙到着から納入までの期限が短くなることがあります。

3月末までに納入のなかった場合は、4月から会員資格喪失により

退会の手続きをさせていただくことがあります。

* 退会となった場合、これまで獲得した各種生涯学習履歴および認証資格等は

すべて失効となります。再度入会を希望した場合は「新入会」となり再履修が必要です。

◆ 【4月以降の異動が決定した場合(特に県外へ)】は、可能な限り早めの申請をお願いします。

◆ 【休会、退会】を希望される会員は、2025年3月31日に手続きを完了できるよう早めに申請をして下さい。

* 期間内に手続きが完了した場合は、引落決済確定後も後日返金されます。

* 年会費納入確定後4月2日以降に申請をされた場合は、返金されませんのでご注意ください。

* 休会については1年毎の申請が必要です。

会員情報の変更手続きについては、

日本理学療法士協会HPの「マイページ」から手続きを行ってください。

マイページにアクセスするには、協会が各個人に発行したIDとパスワードが必要です。

「IDやパスワードがわからない」という方は、協会HPから再発行の手続きをお願いいたします。

「そもそもインターネット環境が無い」という会員の方は、

お手数ですが日本理学療法士協会まで問い合わせをお願いします。

(公社)日本理学療法士協会 TEL:03-5843-1747

* 会員情報につきましては、(公社)日本理学療法士協会の会員管理システムにて一括管理されているため、県士会単独では対応ができません。

◆ (公社)日本理学療法士協会の年会費割引制度の案内

日本理学療法士協会には年会費の「育児休業割引」、「シニア割引」、「海外会員割引」があります。詳細は日本理学療法士協会HP「年会費」をご覧ください。

◆ 会員の慶弔があった場合について

一般社団法人山梨県理学療法士会 慶弔規定に基づき対応いたします。

山梨県士会HPの「お問い合わせ」のページ内にある「会員慶事通知フォーム」、「会員弔事通知フォーム」からお願いします。

◆ 事務管理局への問い合わせについて

山梨県士会HPの「事務管理局への問い合わせ」メールフォームからお願いいたします。

インターネット環境がない会員の方は、

甲州リハビリテーション病院 リハビリテーション部 理学療法科内 担当 山下

TEL:055-262-3121(病院代表電話)までお願いします。

メール登録フォームURL:

<http://form3.yptamail.info/fm/mailUserExt/showRegisterForm?gpid=rpnONZthgtfUqrwtLaiOgzf>



登録メール解除フォームURL:

<http://form3.yptamail.info/fm/mailUserExt/showUnregisterForm?gpid=rpnONZthgtfUqrwtLaiOgzf>



◆ メール配信における配信エラー(メールの不達)について

以前からお伝えしておりますが、せっかくアドレスを登録していただいても配信エラーとなりメールの不達が一定数あります。中でも携帯電話のキャリアメールに配信エラーが多くみられます。

キャリアメールはセキュリティレベルが高いため、本文にハイパーアリンク(クリックするとブラウザが立ち上がり、指定のHPが開く等)があり、HPに誘導するなどを検知すると、「迷惑メール」としてキャリアブロック(メールの不達)されることがあります。

キャリアメールはドメイン以下(@以降)が次のようなものです。

- ・NTTドコモ:@docomo.ne.jp
- ・KDDI(au):@au.com、@ezweb.ne.jp
- ・ソフトバンク:softbank.ne.jp、@●. Vodafone.ne.jpなど

キャリアごとに解決方法が異なるので、キャリアメールを登録されている方は、ご自身が契約している携帯会社のHPやショップで解決方法をご確認ください。

また別のメールアドレス(Gmailやヤフーメール等)への変更もご検討をお願いいたします。





＼途絶えることのないバトンを君に／

リレーエッセイ

士会員を対象に、身近な出来事・お国自慢・今はまっていること・病院紹介など、何でもよい（ただし、誹謗や中傷の内容は除外します）ので400字程度で執筆していただき掲載していく企画です。

以前のSupportersにあった「会員のひろば」との違いは、会員同士の輪を広げるということで、執筆された方が次の執筆者を決めて、紹介していただくという点です。無理やり書いていただくわけではなく、執筆者同士の繋がりを大切にしていきたいと考えていますので、依頼を受けた方は快く執筆していただけたらと思います。

『リレーエッセイ』とは…

リレーエッセイ

Part 47-1

石和温泉病院の関野真士先生からバトンを受け取りました。貢川整形外科病院の田中博之です。

山梨の習慣の一つに「無尽」という文化があります。県外や若い先生は馴染みがないかもしれません。無尽とは月1回程度、特定のメンバーで集まって食事や飲み会を行い、その時に食事代とは別にお金を出し合って積み立て、メンバーが順番に使ったり、旅行などの目的のために役立てたりします。私も地元のメンバーと無尽を行っており、その会では毎年旅行へ行くための積み立てを行います。

コロナの影響もあり自粛期間中は、楽しい時間が無くなり寂しい気持ちでしたが、最近では以前のように再開し、仕事への活力が増すようになりました。無尽は気の合う仲間や同じ趣味の人同士で集まるコミュニケーションツールとして今後も残していきたい山梨文化の一つです。

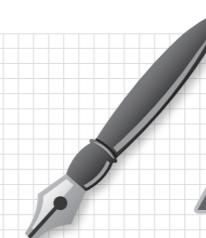
次回は一宮温泉病院の雨宮一輝先生へバトンを渡します。よろしくお願ひします。



貢川整形外科病院 田中 博之

原稿を募集しています！

会報部では会員の声を少しでも多く取り入れたいと考えております。テーマ等は自由です。



内容の規定はありませんが、個人・団体等の中傷あるいはこれに準ずるものは不可。

- 1. 研修会・勉強会等の開催案内・報告内容など
- 2. 各種お知らせ事項など
- 3. 体験記など
- 4. その他

※ 第166号発行は、2025年9月を予定しています。

原稿の締め切りは

8月中旬です。

●問い合わせ先：事務管理局 会報部 宇月正明
春日居総合リハビリテーション病院
TEL: 0553-26-4126 FAX: 0553-26-4366
E-mail: kaihoushiyamanashipt@yahoo.co.jp

リレーエッセイ

Part 47-2

小規模多機能ホーム昭和 芦川 聰宏



笹本整形外科の手塚尚輝先生よりバトンを引き継ぎました。小規模多機能ホーム昭和の芦川聰宏です。

これまで、回復期の病院や大学、外来、訪問、通所リハビリ、通所介護、グループホーム、小規模多機能型居宅介護と経験してきました。自分のやりたいことだけでは選ぶことがなかった事業所を経験することで、自分の中だけにあると思っていた興味

は自分の外にもあったと感じることができ、仕事において大事にしている価値観に気づききっかけになりました。思いもよらない困難や不遇でも、この経験が自分にとって何かを学ばせているのかもしれない、意味を持つことで、変化に柔軟に対応してチャンスを掴めるのかもしれません。これからも理学療法士として地域の方や仲間に還元できるような人材になれるように自己研鑽していきたいと思います。

次回は、株式会社キクコアの菊池雅樹先生にバトンをお渡します。よろしくお願い致します。

編集後記



台風10号並びに能登半島豪雨にて被災された方へ心よりお見舞い申し上げます。そして全ての医療・福祉に従事している方々と、お忙しい中、快く執筆をしていただいた諸先生方に感謝申し上げます。

さて2024年10月1日に東京工業大学と東京医科歯科大学が統合、東京科学大学となった。ホームページの「理事長と学長のメッセージ」の中で「多様な学問領域を融合させるコンバージェンス・サイエンス創成へ」とあった。田中學長は「コンバージェンス・サイエンス」を「融合科学」と訳している。

日本理学療法学会連合はEBPTを推奨しており、実践している理学療法は科学と考える。国語的に「理学」は自然科学、英語ではscienceの意。私見だが、多くの学問の組み合わせで成立している理学療法も以前から「融合科学」と思われる。ただ私の理学療法が科学であってほしい…

また会報誌発行の際には引き続きご協力をお願いいたします。

宇月 正明

【発行】一般社団法人 山梨県理学療法士会

【代表】磯野 賢

【企画・校正】宇月 正明 古澤 淳一 進藤 圭一郎 清水 真琴

【編集・印刷】株式会社 たけまる

【会報部】〒406-0014 山梨県笛吹市春日居町国府 436

医療法人 景雲会 春日居総合リハビリテーション病院

TEL: 0553-26-4126 FAX: 0553-26-4366

E-mail: kaihoushiyamanashipt@yahoo.co.jp



